

まちづくりに参加したメンバーの感想・これからの抱負

グループ名：富里ちょこっと改革隊 

ソウダイ：結構大変だった印象を受けました。私たちのグループをサポートしてくださった方々、グループのメンバーの方々に感謝します。

こうき：この活動を通じて、SDGs に対する理解を深めることができました。この経験を活かし、身近にできる SDGs を実行していきたいと思っています。

こーだい：チラシをポストインしたり、壁に塗装することは初めてで手こずってしまうところもありましたが、いい経験になりました。また、いい出会いもありました。これからも富里市に貢献していきたいです。

な み：今若者プロジェクトに参加して、私は企画の実現の大変さや、地域の方々と協力する大切さを学びました。また、トイレの壁に描くという貴重な経験ができてよかったです。

ダ イ：昨年度に引続き、参加しました。今年度は受験生だったので、参加できないことが多くありましたが、グループの皆さんが協力してくれたので、楽しんで活動を終えることができました。また機会があれば参加したいです。

グループ名：enjoy sports とみさと 

ゆいと：最後までやり抜くことができるか不安でしたが、活動を重ねて、絆が強まり、最終的に最高の活動を行うことができ、とてもうれしい気持ちでいっぱいです。

み か：今回の活動を通して、子どもたちの運動不足解消につなげることができたらうれしいです。また、市の課題や SDGs について深く学ぶことができたのも、良い経験になりました。

みさき：小学生たちに楽しく運動を提供することができて、貴重な経験となっています。楽しく運動することで、個人のストレスにならないことや継続力を高めることができるので、運動不足にならないように体力向上を目指したいと思っています。

グループ名：おいでよ とみさと

ゆきや：若者プロジェクトに参加して、たくさんの貴重な体験ができました。その中でも、多くの協力のもと商品ができるという大変さを学びました。商品が継続販売されたときは、これからも富里の観光面に役立ってほしいです。

り ん：若者プロジェクトに参加し、非常に貴重な経験をさせていただきました。商品開発や販売をする過程で、富里市の方々の温かさに触れることができました。今後も富里市のために何かできることがあれば、行ってみたいです。

あきひろ：今回の活動に参加できたことをとてもうれしく思います。富里市民として、富里市のために初めて直接まちづくりに貢献できることをしました。活動の中で、一般の市民の方に出会い、この活動を褒めていただいたときは、本当に活動して良かったと思いました。今後も富里市のために活動したいと思いました。

み く：富里市の PR ということで、商品開発を行いました。販売の際には、地域の方と話す機会もあり、温かいお言葉もいただけて、うれしかったです。今回の活動を通して、多くの方に富里市の良さを知っていただきたいと思います。



第2期若者プロジェクトチーム 活動報告書

令和5年2月発行 編集・発行：富里市総務部市民活動推進課 若者プロジェクトチームメンバー 〒286-0292 富里市七栄 652-1 電話 0476-93-1117

若者プロジェクトチームによる目指せ！

サステナブル・コミュニティ2



地域課題



第2次富里市協働のまちづくり推進計画の実行計画に基づき、市内在住・在学している中・高生、社会人の若者12名が、地域課題の解決及び持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、令和4年6月24日から令和5年1月28日の間、16回に渡り、地域課題について各地域づくり協議会から説明を受けたほか、SDGsについて学び、現地調査、市民活動団体への取材などを通じ、課題を把握し、解決方法を検討し、アドバイザーから助言を受けながら、企画事業を立案・実行して、まちづくりに参加しました。事業実施に当たっては、市民の皆さんをはじめ、市民活動団体、事業者、生産者、学校の御協力をいただきました。

市長挨拶



富里市長 五十嵐 博文

若者プロジェクトチーム事業は、若者たちにまちづくりに参画する機会を提供し、若者たちが、地域に目を向け、興味・関心を持つことにより、富里を想う心も育む事業であると考えております。今回、本事業に御協力いただきました皆様に感謝を申し上げます。今後も、若者たちが地域と連携するまちづくりを支援し、「持続可能なまち・富里」へつながるように努めてまいります。

各グループの地域課題の把握から企画事業実施

グループ名：富里ちょこつと改革隊 

地域課題：暗い、汚いイメージの地域の公園のトイレ

SDGs 目標：



事業名：「5ちょこトイレを地域の力でちょこつと改革！」※「5ちょこ」とは、日吉台5丁目公園のことです。

内容：暗い・汚い・使いたくないイメージのある地域の公園のトイレを課題とし、現状とニーズを把握するため、日吉台5丁目住民の方々にアンケート調査を行い、令和4年12月17日（土）に日吉台第7公園で、地域ボランティア13名と共に、トイレの壁に絵を描くなどして、明るいトイレに変身させました。地域住民の方々からは「明るくなった」、「大切にに使わせていただきます」などの感想が寄せられました。



アドバイザー
合同会社 J-doc company
代表社員 影山貴大氏



課題に対する思考方法は、ある課題が様々なことと連鎖し、影響し合っているという「システム思考」と、課題に直面している人たちの思いに共感することから入る「デザイン思考」がある。汚いトイレから、どんなトイレだったら地域の人たちが喜んでくれるかを考え、いかに住民を巻き込むかが大事。

アドバイザー
有限会社サダ・アート
代表取締役 鈴木優作氏

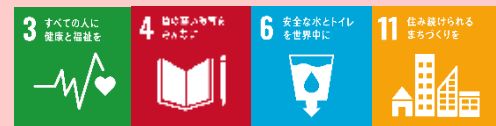


公園の中央にトイレがあるので、インパクトのあるものを描くとトイレのイメージも良くなると思う。きれいにすることで、道徳心も芽生え、きれいに使うようになる。塗装の手順は、汚れを落とし、金属部分は養生し、下塗り、上塗りを行い、下絵を描き、絵を塗る。縁取りが必要な絵は色を入れてから縁取ると良い。

グループ名：enjoy sports とみさと 

地域課題：コロナ禍における子どもたちの運動不足

SDGs 目標：



事業名：「体を動かせ！わくわくすごろく」

内容：令和4年12月24日（土）に健康と体力づくりにつながるよう、富里第一小学校の体育館に巨大な「すごろく」をつくり、楽しく体を動かす機会を提供しました。小学生19名が4チームに分かれ、それぞれサイコロの数を進み、体を動かすミッションをクリアしてポイントを争いました。ゴリラのもののまねをするなどの体力に関係ないミッションもあり、参加した児童には笑顔があふれていました。



アドバイザー
順天堂大学先任准教授
鈴木宏哉氏



子どもたちの体力の低下は、運動習慣が減ってきていることが要因と考えられる。実施時間は、小学生の授業時間と同じ45分単位とすると良い。ミッションは、楽しめる要素を強くして、成功率50%位に設定することで挑戦したいという気持ちが出てくる。「子どもたちに楽しく運動してもらうこと」を忘れてはいけない。「運動を習慣化」してもらうことを目標とすべき。

グループ名：おいでよ とみさと

地域課題：観光客の減少

SDGs 目標：



事業名：「おいでよ とみさと ニョキット蒸しパン販売！」

内容：観光客の減少を課題とし、富里市に興味を持ってもらいたい、富里市に来てほしい！という思いから、地元事業者と生産者の協力を得て、収穫量全国第1位のにんじんと厳選された原材料（7大アレルゲン不使用）で体にやさしく、また、簡易包装で環境にもやさしい「ニョキット蒸しパン」を商品化しました。令和5年1月14日（土）に、観光・交流拠点「末廣農場」にて、50個限定販売しました。商品を購入されたお客様からは、「にんじんが苦手でもおいしくいただけて、にんじんを引き抜ける遊び心もあり、とてもかわいい蒸しパンでした！」、「見た目もかわいく孫に食べさせたい」などの感想が寄せられました。協力：株式会社ケー・イー食品開発（はすっ娘本舗）、青ちゃんファーム



アドバイザー
株式会社ケー・イー食品開発
代表取締役 大木和己氏



にんじんの特有の匂いは、リンゴを使用することで柔らげることができる。一般的な保存料なしの蒸しパンの賞味期限は、2、3日程度。日持ち向上剤を使用した蒸しパンだと1週間程度となる。無添加である程度日持ちをさせるとなると、砂糖、食物繊維などを使用し、糖度を出す必要がある。

公開 SDGs 学習会

第2回の活動では、公開講座「SDGs 学習会」を開催し、若者プロジェクトチームメンバーのほかに、一般の方々11名が参加しました。講師の小松氏から「SDGs から考える、私たちの生きる世界と時代」と題し、御講演いただきました。参加者からは「具体的な内容で SDGs の現状が分かった」、「未来を考え、自ら行動することが必要と感じた」などの感想が聞かれました。

講師

Sustainable Brands Japan
編集デスク 小松遥香氏



SDGs をうたっている商品でも、製造する過程において、環境や社会問題に配慮しているかどうかなどを見ることが大事である。

若者プロジェクトチームの活動の詳細は、こちらからご覧ください。



各アドバイザーからの講評（抜粋）

影山氏：本当にナイスチャレンジ！最後までやり遂げた経験は何よりもかえがたいものに必ずなるはず。地道な一歩、チャレンジがいつの間にか多くの人の心を動かし、良い地域をつくっていきます。

鉢（優）氏：自発的に本事業に携わるという素晴らしい経験が自身のみならず、地域の人々を巻き込み、良い影響を与えていることを実感し、これからの活動への活力としていくことを心から願います。

鉢（宏）氏：アイデアが更にバージョンアップしたイベントになっていたことに驚きました。現代っ子の現状を踏まえつつ、更に発育発達学やスポーツ科学の視点からみても理にかなった企画になっていたと思います。

大木氏：斬新なアイデア、それを形にするためにチーム一同が力を合わせて取り組み見事に完成させ、収穫量日本一のにんじんをスイーツの世界で花を開かせましたね。